

平成23年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成22年9月2日

上場取引所 JQ

上場会社名 ピープル株式会社

コード番号 7865 URL <http://people-kk.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役兼代表執行役

(氏名) 桐渕 千鶴子

問合せ先責任者 (役職名) IR担当

(氏名) 飛田 留美子

TEL 03-3862-2768

四半期報告書提出予定日 平成22年9月3日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 平成23年1月期第2四半期の業績(平成22年1月21日～平成22年7月20日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年1月期第2四半期	1,273	6.3	93	56.8	100	135.7	67	174.7
22年1月期第2四半期	1,197	10.3	59	—	43	—	24	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年1月期第2四半期	15.37	15.35
22年1月期第2四半期	5.59	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年1月期第2四半期	2,136	1,745	81.7	400.49
22年1月期	2,372	1,891	79.7	434.03

(参考) 自己資本 23年1月期第2四半期 1,745百万円 22年1月期 1,891百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年1月期	—	0.00	—	45.00	45.00
23年1月期	—	0.00	—	—	—
23年1月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

平成23年1月期の期末配当予想につきましては、第3四半期が終了し、年末商戦を見極めた上で発表させていただきます。

3. 平成23年1月期の業績予想(平成22年1月21日～平成23年1月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

当社の業績は、年末商戦(10～12月)の業績に左右されます。このような玩具市場の特性に鑑み、第3四半期までは通期の業績予想発表を差し控えさせていただきます。次期四半期についての業績予想はサマリーの3ページ目をご参照下さい。

4. その他（詳細は、【添付資料】P.**「その他」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

(注)簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(注)「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年1月期2Q 4,437,500株 22年1月期 4,437,500株

② 期末自己株式数 23年1月期2Q 80,093株 22年1月期 79,816株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年1月期2Q 4,357,633株 22年1月期2Q 4,357,684株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

5. 平成23年1月期第3四半期会計期間（平成22年7月21日～平成22年10月20日）および
平成23年1月期第3四半期累計期間（平成22年1月21日～平成22年10月20日）の業績予想

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		第3四半期純利益		1株当たり第3四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
23年1月期第3四半期	685	(△15.4)	76	(△30.8)	※	※	※		※	
22年1月期第3四半期	809	(9.0)	109	(20.7)	111	(101.7)	66	(-)	15	15
23年1月期第3四半期 累計期間	1,957	(△2.4)	169	(0.0)	※	※	※		※	
22年1月期第3四半期 累計期間	2,006	(9.8)	169	(142.9)	153	(248.5)	90	(-)	20	74

(注) 経常利益および当第3四半期純利益ならびに1株当たり当第3四半期純利益につきましては、開示対象ではありますが、当社では予想をさし控えさせていただいております。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報	2
（1）経営成績に関する定性的情報	2
（2）財政状態に関する定性的情報	3
（3）業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
（1）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
（2）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期財務諸表	5
（1）四半期貸借対照表	5
（2）四半期損益計算書	6
【第2四半期累計期間】	6
【第2四半期会計期間】	7
（3）四半期キャッシュ・フロー計算書	8
【第2四半期累計期間】	8
（4）継続企業の前提に関する注記	9
（5）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
4. 補足情報	10
（1）カテゴリー別販売の状況	10
【第2四半期累計期間売上高】	10
【新発売商品】	10

【添付資料】

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

	金額	対前年同期間比
売上高	1,273百万円	6.3%増
営業利益	93百万円	56.8%増
経常利益	100百万円	135.7%増
第2四半期純利益	67百万円	174.7%増

第2四半期累計期間売上高、前年同期間比6.3%増

当34期第1四半期で、4年ぶりに回復基調を牽引した玩具部門も、第2四半期に入り回復スピードに減速が見られ、再び不透明感が広がる局面を迎えましたが、既存品の堅調な売上に支えられ、第2四半期累計期間売上高は、12億73百万円、前年同期間実績対比6.3%増で推移しました。

玩具部門では市場全般減速しながらも縮小を押し留めたのは「やりたい放題ビッグ版」や「赤ちゃん新聞」等の超ロングセラー品等を含む乳児・知育カテゴリーで、当期では広告よりも、TV番組等に取り上げられた既製品が口コミで回転促進され、第2四半期の売上を支えました。

また、同カテゴリーでは、消費低迷が流通心理に影響し、“立ち月齢”8ヶ月に特化した熱中知育シリーズ等、高額寄りの当社製品では取扱店舗が昨年より縮小傾向を強めました。しかし、「熱中知育EX(8,500円税別)」は好調を維持し、回転鈍化した「熱中知育アルキメデス」12,800円(税別)は更に高級感を高める「熱中知育プレミアム」と改名し、同価格で当第2四半期に発売したところ、取扱店が減数したにも関わらず、回転は前年比2.8倍にも跳ね上がりました。このように、知育玩具に出費する消費者心理は必ずしも安くないと売れないという流通心理と同じではなく、当第2四半期では高額ピタゴラスシリーズ等も当期発売新製品「ピタゴラスこれなーんだ？」4,200円(税別)のヒットで、既存の12,000円のピタゴラスが連動して前年を超えて回転し始めているのは興味深い現象です。

女兒玩具カテゴリーでは、前年に比べ当第2四半期で新製品点数を減らしたお人形シリーズの回復にやや減速感を強めました。しかし、品揃え点数が減った後の既製品は、人形市場全般の鈍化傾向に比べ、下振れが小幅に留まっている事から新製品点数を増やすよう流通からの要求が強くなる等、商材として期待を維持しています。又、第2四半期に入り女兒ホビー玩具の各社凄まじい点数の新製品で売り場は溢れ返り、昨年度のヒット商品「エコパピエ」の売れ行き等に影響しています。

自転車カテゴリーでは、ゴールデンウィークを境に自転車市場全般の需要縮小が顕著となり、第1四半期での期待感が影響して第2四半期で店頭在庫過剰が見受けられます。しかし当社の主力既存品「いきなり自転車」シリーズのセルアウトは、自転車全般の落ち込みと必ずしも連動せず、当第2四半期終了時点で前年並みを維持し堅調な様子です。一方、売上拡大を狙った小学校1年生対象の新製品「いきなり24インチ」は、実売27,000円～28,000円とジュニア車では最高価格となり、マスマーケットへの普及拡大には贅沢品の玩具と異なる出費概念の違いが壁となっているようです。

営業利益、前年同期間比56.8%増

売上の6.3%増収に加え、第1四半期からの円高基調は第2四半期にも引き続いて輸入仕入原価に影響した為、当第2四半期累計期間の営業利益は、93百万円となり、前年同期間比56.8%増となりました。

また、営業外損益では主に有価証券の一部を売却し第2四半期累計段階で11,777千円の収益が計上され、経常利益は1億円となりました。前年同期間では投資事業組合の運用損を計上している為、前年同期間との対比では135.7%増と上回っています。

以上により、税引後第2四半期純利益は67百万円、前年同期間比174.7%増となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期末における資産合計は、前事業年度末に比べて、2億36百万円減少し21億36百万円となりました。流動資産は、現預金が期末剰余金の配当支払による減少の他、一部、投資有価証券の取得により固定資産に振り替わったこと等で3億48百万円減少し、固定資産は取得した投資有価証券を含み1億12百万円の増加となりました。

負債は、主に、未払法人税等が第2四半期末段階では前事業年度末に比べて少ないことから、90百万円減少の3億90百万円となりました。

純資産は、当四半期純利益および保有株式の時価評価による減少、および、剰余金の配当により前事業年度末に比べ1億47百万円減少し、17億45百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は81.7%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期末における現金及び現金同等物は、期初より3億59百万円減少し、13億30百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に税引前四半期純利益の計上による増加の一方、仕入買付が進んだことや法人税等の支払により、27百万円の減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、金型等固定資産の取得および投資有価証券の売買の結果、1億37百万円の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に前期末配当金の支払により1億95百万円の減少となりまし

(3) 業績予想に関する定性的情報

お盆商戦を挟み円高、株安、消費低迷と下振れ圧力の強まる中で、第2四半期で減速感を示した玩具部門での傾向はさらに進むと予想され、当期新製品発売による底上げは最終月10月度以降となる事からも次期第3四半期中での挽回は限定的と見ています。また、自転車部門では、次期第3四半期に当上半期に生じた流通の過剰仕入に対する在庫調整期間を迎えるため、次期第3四半期の出荷ベースでは大きく前年実績を割り込む予想も加わり、総売上高では前年同期実績を15%程下回る厳しい見通しをしております。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

(簡便な会計処理)

① 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産につきましては、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算出する方法によっております。

② 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しましては、加算減算項目や税額控除項目の内、重要なものに限定し算出しております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前事業年度末以降に、経営環境等の著しい変化、かつ一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合は、前事業年度決算において使用した将来の業績予測やタックス・プランニング (将来の法人税等の発生について予測し計画すること) を利用する方法によっております。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成22年7月20日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年1月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,330,358	1,689,892
受取手形及び売掛金	262,618	294,767
商品	218,592	162,020
原材料	1,536	2,090
その他	11,043	23,863
貸倒引当金	△511	△559
流動資産合計	1,823,637	2,172,073
固定資産		
有形固定資産	65,827	58,674
無形固定資産	3,784	4,298
投資その他の資産		
投資有価証券	156,715	50,544
その他	85,549	86,445
投資その他の資産合計	242,263	136,989
固定資産合計	311,874	199,961
資産合計	2,135,511	2,372,034
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	145,964	136,680
未払法人税等	21,851	133,724
その他	172,577	160,261
流動負債合計	340,392	430,665
固定負債		
長期未払金	50,000	50,000
固定負債合計	50,000	50,000
負債合計	390,392	480,665
純資産の部		
株主資本		
資本金	238,800	238,800
資本剰余金	162,712	162,712
利益剰余金	1,394,121	1,523,255
自己株式	△42,784	△42,579
株主資本合計	1,752,849	1,882,187
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△7,730	9,182
評価・換算差額等合計	△7,730	9,182
純資産合計	1,745,119	1,891,369
負債純資産合計	2,135,511	2,372,034

(2) 四半期損益計算書
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成21年1月21日 至平成21年7月20日)	当第2四半期累計期間 (自平成22年1月21日 至平成22年7月20日)
売上高	1,196,777	1,272,657
売上原価	628,685	625,336
売上総利益	568,092	647,321
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	138,185	175,270
販売促進費	16,836	23,106
運賃	78,588	79,777
役員報酬	35,808	33,507
給料及び手当	90,103	94,425
支払手数料	35,968	29,781
研究開発費	37,527	39,870
その他	75,789	78,634
販売費及び一般管理費合計	508,805	554,370
営業利益	59,287	92,951
営業外収益		
受取配当金	1,480	987
有価証券運用益	1,270	—
投資有価証券売却益	—	11,777
その他	1,208	933
営業外収益合計	3,958	13,696
営業外費用		
支払利息	72	—
為替差損	—	4,302
投資事業組合運用損	20,668	2,168
営業外費用合計	20,740	6,470
経常利益	42,505	100,178
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	49
特別利益合計	—	49
特別損失		
固定資産除却損	14	—
特別損失合計	14	—
税引前四半期純利益	42,491	100,226
法人税、住民税及び事業税	6,509	20,919
法人税等調整額	11,607	12,345
法人税等合計	18,116	33,264
四半期純利益	24,375	66,962

【第2四半期会計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期会計期間 (自平成21年4月21日 至平成21年7月20日)	当第2四半期会計期間 (自平成22年4月21日 至平成22年7月20日)
売上高	584,616	580,591
売上原価	318,648	294,737
売上総利益	265,969	285,854
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	60,058	66,115
販売促進費	4,799	12,790
運賃	42,816	41,616
役員報酬	18,446	15,046
給料及び手当	44,756	49,089
支払手数料	17,042	15,411
研究開発費	20,857	23,227
その他	38,666	41,036
販売費及び一般管理費合計	247,440	264,329
営業利益	18,528	21,525
営業外収益		
受取配当金	1,480	987
為替予約評価益	—	1,342
その他	586	443
営業外収益合計	2,067	2,772
営業外費用		
支払利息	72	—
為替差損	—	2,767
有価証券運用損	1,510	—
投資事業組合運用損	20,083	2,582
投資有価証券売却損	—	2,825
営業外費用合計	21,665	8,175
経常利益又は経常損失(△)	△1,070	16,122
特別利益		
貸倒引当金戻入額	546	227
特別利益合計	546	227
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△524	16,349
法人税、住民税及び事業税	2,738	4,979
法人税等調整額	△2,601	2,606
法人税等合計	137	7,585
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△661	8,764

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成21年1月21日 至平成21年7月20日)	当第2四半期累計期間 (自平成22年1月21日 至平成22年7月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	42,491	100,226
減価償却費	23,169	18,350
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△11,777
投資事業組合運用損益(△は益)	20,668	2,168
売上債権の増減額(△は増加)	62,018	32,149
たな卸資産の増減額(△は増加)	32,281	△56,018
仕入債務の増減額(△は減少)	25,467	9,284
その他	30,408	9,443
小計	236,503	103,825
利息及び配当金の受取額	1,582	991
利息の支払額	△72	—
法人税等の支払額	△65	△131,487
営業活動によるキャッシュ・フロー	237,948	△26,670
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△26,706	△26,144
投資有価証券の取得による支出	△10,360	△239,171
投資有価証券の売却による収入	—	127,885
投資活動によるキャッシュ・フロー	△37,066	△137,430
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	—	△205
配当金の支払額	△108,411	△195,192
その他	△143	337
財務活動によるキャッシュ・フロー	△108,554	△195,060
現金及び現金同等物に係る換算差額	△92	△36
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	92,236	△359,197
現金及び現金同等物の期首残高	1,087,505	1,689,414
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,179,741	1,330,218

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) カテゴリー別販売の状況

①第2四半期累計期間売上高

(単位 千円)

	前年同期間 (自平成21年1月21日 至平成21年7月20日)	当第2四半期累計期間 (自平成22年1月21日 至平成22年7月20日)	前年同期比 (%)
乳児・知育玩具	433,324	496,831	114.7
女児玩具	292,451	276,809	94.7
遊具・乗り物	346,930	358,394	103.3
その他	124,072	140,623	113.3
合計	1,196,777	1,272,657	106.3

②新発売商品

カテゴリー名	当第1四半期 新発売商品		当第2四半期 新発売商品	
	商品名	標準小売価格 (税込)	商品名	標準小売価格 (税込)
乳児・知育玩具	「ピタゴラスこれなーんだ？」	¥4,410	こわしたい放題	¥6,279
	「新生児から遊べるベビージムはこれだけ」他、ベビーシリーズ計5種	¥714~¥2,079	熱中知育プレミアム	¥13,440
	「2歳の子供部屋」	¥15,540	いたすらの知育シリーズ 「たたいて出てこい！好奇心PC版」	¥2,310
			いたすらの知育シリーズ 「ママにはゴミでもボクには宝物」	¥1,680
女児玩具			「やりたい放題ビッグ版」(リニューアル)	¥5,040
	「おしゃべりベッド」 (リニューアル)	¥3,129	やわらかお肌の「着回しぼぼちゃん(ロングヘア)」	¥4,809
遊具・乗り物			着せかえ「着回しごっこデニムベストファッション」	¥2,289
	「新体感ブロック」	¥15,540		
	「いきなり自転車かじとり式」ブリティッシュグリーン	¥23,940		
	「いきなり自転車折りたたみ式」マーマレードオレンジ	¥23,940		
	「いきなり自転車軽合金プレミアム」シャンパンゴールド	¥31,290		
	「チェーン式三輪車」トリコロールチェーン	¥17,745		